

中学生カテゴリーにおけるレフェリングについて



令和5年3月1日

(公財)日本ハンドボール協会
審判本部長 福島 亮一
中学生委員会審判長 戸塚 幸廣

(公財)日本ハンドボール協会中学生委員会では、ハンドボールの基礎・基本を大切にしながら中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールが展開されるようにしています。中学生が、「安心・安全」「スピーディー」「エキサイティング」なハンドボールを力いっぱい行えるように中学生目線に立ったレフェリングを行います。

1. イエローカードを積極的に適用する

口頭注意はイエローカード相当という考え方のもと、選手の安心・安全を守るためにも積極的にイエローカードを適用し、基準を明確に示します。両チーム合計6枚のイエローカードを適用することもあります。立ち上がり15分間を含めた得点後にイエローカードを適用することもあります。

後半は、前半で基準を示しているということを前提とし、たとえチームに3枚のイエローカードを適用していなくても、競技規則8:3に該当する身体接触を伴ったイエローカードは適用しません。即座に2分間退場を適用することになります。

ただし、試合開始直後であっても競技規則8:4に該当する違反行為には即座に2分間退場、競技規則8:5に該当する違反行為は失格となります。

2. 新競技規則を正しく運用する

・スローオフエリアについて

スローオフエリアを使用し、走りながらもスローオフが実施できます。スローオフを行う選手がスローするタイミングや他の選手の位置に注意していきます。

・パッシブプレーについて

予告合図後の最大パス回数を4回とします。誰もが分かりやすいタイミングでの予告合図とともに、「手を挙げるよ」「1, 2, 3…」という回数のカウントを行いながら攻撃側にも防御側にもわかりやすく伝えていきます。

・GKの頭部（顔面を含める）へのシュートについて

「ゴールキーパーと1対1の状況」のシュート局面で適用します。GKの体が動いていたか止まっていたかが問題ではなく、GKの通常の防御動作で頭部にボールが直撃すれば罰則を適用します。

ラインクロスやオーバーステップなどで、ボールの所持が変わる判定後のシュートにも罰則が適用されます。

中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールの適用について

2021年3月27日
(公財) 日本ハンドボール協会
中学生専門委員会



モダンハンドボール

- 近年のハンドボール競技の特徴
- ☆ 激しいボディー**コンタクト**
- ☆ **スピーディー**なゲーム展開

- モダンハンドボールが展開されるために・・・
- ☆ 『**コンタクトプレー**を正しく見極める』
ハードプレーとラフプレーの見極め (競技規則 8 : 1 ~ 8 : 3)
- ☆ ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす 安易にゲームを中断しない

中学生カテゴリーにおいても、モダンハンドボールが展開されていくようにする

シニアレベル

中学生カテゴリー

ハードプレーとラフプレーの見極め
(競技規則 8 : 3)

- ・ ボディーコントロールは…?
- ・ プレーヤーへの影響は…?
- ・ ボールを対象にしたプレーだったか…?
- ・ 不利な位置からの接触 (横から 後方から) は、ラフプレーとして判定

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 違反を受けたが、影響がないためボディーコントロールを失わず、シュートを打ち切った → ゴールイン 罰則不要 ノーゴールでも継続 <p>(ゲームの流れを重視し、口頭での注意等) チーム・プレーヤーへ基準を伝える</p> <ul style="list-style-type: none">・ 引き倒されたが、その違反に対する影響が小さかったため、ゴールイン 罰則不要 ゲームの流れを優先するために、中断せず笛の数を減らし、プレーヤーに口頭で注意 クイックスローオフの機会を奪わない・ コート上で負傷して治療行為を受けた場合速やかにコートから出る 自チームが3回の攻撃を終えた後、コートに戻ることができる・ 競技規則 8:4 に該当する行為は、口頭での注意やイエローカードではなく、即座に2分間退場を判定する 8:5 に該当する行為は、失格とする | <ul style="list-style-type: none">・ 違反行為とその影響を正しく見極める <p>違反の強度は…?
本当に影響はなかったのか…?
状況に応じ、段階的罰則が必要になる
状況に応じ、ノーゴールであれば7m t を判定する必要がある</p> <ul style="list-style-type: none">・ どこまでが許され、どこから許されないか、なぜ、許されるのか、許されないのかを段階的罰則を有効に活用して丁寧に教えながら伝えていくことが大切 前半では、試合の流れを中断してでも基準 (許容範囲) を伝えていく必要あり 状況に応じ、クイックスローオフを成立させないこともある・ コート上での負傷者に関する競技規則は、適用しない 時計を止めるタイミングはシニアレベルと同じように対応する・ 中学生カテゴリーにおいても、試合開始直後であろうが、競技規則 8:4 8:5 に該当する行為については適切に対処する (即座に2分間退場・失格) |
|---|--|

シニアレベル

中学生カテゴリー

前半のうちに ・インフォメーション
・ボディランゲージ(大きくはっきり)
・段階的罰則 等で
基準(許容範囲)を伝えていく
「違反を判定する」のではなく「違反をさせない」ように
レフェリーとしてリーダーシップを発揮
後半、罰則を適用する必要がないように予防的行動

経験、競技規則の理解が浅い中学生
心身ともに発達段階の中学生
実態を踏まえて

中学生目線にたったレフェリングの実践

・プレーヤー、コーチと
コミュニケーション
ボディランゲージ (Body Language)
根拠を適切に口頭で説明

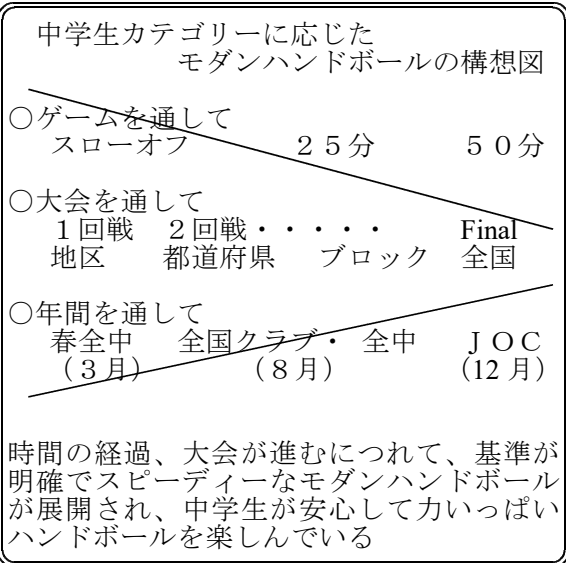
・コミュニケーションの図り方、
ボディランゲージ (Body Language)
口頭での説明 等を工夫していても
十分に伝わりきらないことがある

イエローカード = 口頭での注意

・シニアレベルよりも、丁寧に伝えていく
手段として、試合の流れを重視しながら
も、段階的罰則を有効に活用する
口頭での注意はもちろん、最大3枚の
「イエローカード」と「即座に2分間退場」
を有効に活用し、前半で基準を伝える
ただし、後半は原則として身体接触を伴
う違反のイエローカードは使用しない
※ 前半で基準を伝えていることが前提

試合の流れを中断してまでも基準を伝える
場合は、口頭の注意で済ませるのでは
なく、イエローカードを活用する

※オールドスタイル(6枚のカード)で
レフェリングするという意味ではない



良いプレーを保証 悪いプレーを排除
↓
プレーヤー、コーチ、観衆、レフェリー、
役員、補助役員等 すべての関係者が基準
を理解している

前半は、シニアレベルよりも時間を要すこ
ともあるが、結果的にゲームがスムーズに
流れる

笛数が減り、安易にゲームが中断されない

中学生カテゴリーに応じたモダンハンドボールが展開される